

## 身近な「もの」大切に

毎年春に倉敷市芸文館前広場で行っている「ファイールドオブクラフト倉敷」。県内外のクラフト作家が野外で作品を展示するイベントで、私は実行委員長を務めています。

今年の開催は5月14、15日で、北海道から九州まで各地で活躍する8組（ワークショップを含む）と飲食ブースの出展が決まりました。ポスターやチラシも完成し、今は大詰め段階です。

今年で6年目を迎えるこのイベントは、私と友人である木工作家の想（おも）いで始まりました。長

野県松本市で大規模に行われる「クラフトフェアまつもと」に触発され、岡山でもできな

かと思えたのです。倉敷を選んだのは施設や周辺の条件が良かったことかもしれませんが、ものづくりにかわりの深い土地であること、また「民芸」という意味でも松本と共通点があったからかもしれません。

クラフトフェアを開催するに当たって、中途半端なイベントにはせず、ある



展示された作家作品

程度水準を保つよう心掛けてきました。出展する作家も基本的には推薦方式で、知名度よりも作品の方向性や作家本人の人間性を重視しています。

最初は小規模で、手探りから始めた状態でしたが、作家やワークショップ、飲食出店者が好評となり、クラフトフェアは年々大きくなりました。県外からの来場者も増え、昨年は1万5千人を動員。おかやま国文祭にも参加しました。

イベントの成功はうれしい話です。しかし、毎年イベントを行い、さらに規模が大きくなれば、それなりに社会性を求められます。プレッシャーも感じます。

実行委員には、私と同様に建築に携わる人が多く、クラフト作家が中心となる他県のクラフトフェア関係者から、なぜ建築家が多いのかと不思議がられたこともありました。

私たち建築家がクラフ

トフェアを続けるのは、大変だけど楽しいし、ものづくりが好きだからというのはもちろんですが、丁寧に作られたものを手にすることで、多くの人に「もの」に対する意識を高めてほしいからでもあります。身近な「もの」から住空間へと意識を広げ、より自分にとって居心地の良い暮らしを考えるきっかけにできればと思っています。

ただ、回を追うごとに大きくなったので、今後どう方向づけるか思案もしています。作家の間で存在も認知されてきたので、選考方法や開催場所など今後検討するときが来るかもしれません。

土岐建築デザイン事務所  
土岐 一嘉

1960年高梁市生まれ。建築会社、設計事務所を経て2000年土岐建築デザイン事務所開設。04年有限会社土岐建築デザイン事務所設立。事務所＝岡山市中区祇園941-3、電話086-275-2802、ホームページhttp://www.toki-ad.com

